

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1270902818
法人名	株式会社エンジョイ
事業所名	エンジョイ松が丘そよ風
所在地	千葉県船橋市松が丘5-31-1 (電 話) 047-456-3777

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月18日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 16人, 非常勤2人, 常勤換算10.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他	食材料費45,000 + 水光熱費15,000 + 実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(280,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年 毎月1 万円の償却)
食材料費	朝食 400 円	昼食 500 円	
	夕食 600 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低 72 歳	最高	歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	産育会病院・中条医院・共立習志野台病院・ラビット歯科・若葉クリニック
---------	------------------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設3年目となるフランチャイズ式グループホーム。最寄り駅は北習志野駅。周辺は静かな住宅街で、入居者も近隣住民も古くから土地に住んでいる人ばかりである。この3年間で、母体が新日本建物からメデカジャパンに変わったり、管理者の交代があったりもしたが、入居者に影響がでることもなく、安心・安全な暮らしを提供し続けている。同ホームでは、特に医療連携の充実に力を注いでいる。ユニットごとに往診医があり、24時間対応も可能、提携の薬局からは薬剤師が訪問して入居者の服薬管理をするなど、安心して年を取るための万全の体制を敷いている。入居者は料理、洗濯、さまざまな遊びに興じ、職員と共に楽しげに暮らす様子が見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域交流に関しては、ようやく町会へ参加できるようになったところである。今後は、併設のデイサービスのホールを町会の会合等に開放し、行事参加や認知症・介護保険に関する勉強会開催など、さまざまな活動を行っていく予定である。玄関の鍵は、入居者が一人で外に出てしまうことを避けるため、常時施錠している。人材育成に関しては、主として管理者が内部研修会などへ参加するに留まっている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 主として管理者が自己評価票を作成した。職員に意見を聞いてはいるが、自己評価票の全項目について話を聞くには至っていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は第一回目を開催したところである。討議の内容は、ホーム紹介と行事のお知らせなどともに、医療連携について、提携医と話し合いを行っている。参加者はホームのスタッフの他、町会員、入居者家族、提携の医師などで、船橋市北部地域包括支援センターは、声をかけたが参加を得られなかった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議と同日に家族会を行った。苦情相談窓口なども説明文書に明示されているが、家族からの意見要望はあまりあがっていない。入居者の暮らしぶりについては、毎月家族にお便りを送ってお知らせしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩、商店やコンビニへの買い物、夏祭り参加などを通じて、地域の人と触れ合いを持っている。今後は、町会参加を通じ、さらに地域連携を深めていく予定である。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を元に、毎年のスローガン、ユニットごとの目標などを作成し、認知症の状態でも入居者がその人らしく生活できるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、スローガン、目標は、ケース会議やユニットごとの話し合いの際に、常に念頭に置いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動への参加については、検討段階で、まだ実現に至っていない。	○	町会への参加が認められたところなので、今後は、ホームを町会の打合せ等に開放したり、納涼祭、認知症や介護保険の勉強会などを行っていく予定であるので、実現が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員の意見を反映して自己評価票を作成している。しかしながら管理者の交代があり、新管理者は前回の外部評価結果を把握するには至っていなかった。またすべての職員が前回の外部評価結果、自己評価票の各項目に目を通してはいるわけではない。	○	自己評価作成、外部評価結果は運営者・管理者・職員みなで行い、共有することが望ましいと思われる。また運営推進会議等で情報公表することも求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	先ごろ第一回目の運営推進会議を行った。内容はホームの紹介やサービス内容の紹介および提携医との連携に関する話し合いである。参加者はホーム職員・入居者家族・町会などだが、行政の参加は得られなかった。	○	船橋市北部地域包括支援センターに声かけしているとのことなので、引き続き働きかけを行い、行政を含めて、地域密着型サービスのあり方を検討することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会に定期的に参加しており、そこで船橋市健康福祉課の職員と意見交換する機会がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の近況・健康状態・金銭出納などを記したお便りを家族に送付している。面会時にも随時話している。家族の希望に応じ、Eメールでも連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書や掲示で苦情窓口を明示し、家族会も開催しているが、意見・要望・苦情等はほとんどあがっていない。	○	家族にまったく意見・要望が無いのか、それとも遠慮して言えないからなのか、もう少しアプローチをする必要があると思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設のデイサービスとの間で職員の異動はあるが、ホームと交流があり顔見知りであるため、特に混乱は起きていない。職員の離職・入職の際は、きちんと自己紹介するなどして、入居者が戸惑わないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が行う内部研修に、主として管理者が参加している。研修内容は、資料を申し送りノートに挟み込み、職員各自に読んでもらうようにしている。現場職員の経験段階に応じた計画的な研修開催等は特に行っていない。	○	職員の離職が続いた時期もあったようなので、新任・現任職員それぞれのレベルに応じた研修・勉強会を定期的に行い、認知症ケアや緊急時対応をより着実に身に付けていくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に定期的に参加し、意見交換している。また母体が全国に100ヶ所以上のグループホームを持っており、横のつながりがある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や一日体験入所を通じてホームの雰囲気を知ってもらい、また馴染みの品や使い慣れた家具を持ち込んで安心していただくよう、働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者個々の出来ること・出来ないことを、センター方式アセスメントで把握し、自立を促すよう努めている。ホームで飼っている亀の世話、ペーパーフラワー作り、おはじき遊びなどを通じ、入居者・職員は共に触れあい、楽しんでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が中心となって、日常生活の関りの中で言動や観察から、また同僚職員や面会時の家族からの傾聴などによって思いや意向の把握に努めている。面会の少ない家族とは、メールなども活用している。センター方式のアセスメントによって課題分析も適切に行われ、記録もよく整理されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成への本人、家族の直接参加はないが、各ユニットにケアマネジャーを配置し、把握した本人・家族の意向を取り入れて、ケース会議やユニット会議における検討を行い介護計画を作成している。介護計画書は、よく整理されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別にケースファイルを作成するとともに、モニタリング実践記録によって毎月1回、介護計画の実施状況と課題の達成状況を把握し、必要に応じその都度、その他は3ヶ月に1回計画的に見直しを実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	契約内であるが協力病院への付き添い送迎を実施している。一部併設のデイサービスのリハビリテーションやカラオケの利用もある。入居者の個別ニーズには安全と公平の範囲でできるだけ前向きに対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ユニットごとにかかりつけの協力医を設定している。定期的な往診、協力医によっては24時間対応もあり、契約は結んでいないが緊密な関係にある。本人・家族の希望によっては医師の納得を得て円滑に主治医の変更も実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケア(終末期ケア)の体制は取っていない。家族には、常時医療が必要になったときに限度であると口頭で説明している。	○	本人・家族と事業所の考え方や意向にずれが生じないように、事業所が対応しうる最大のケアについて繰り返し説明することが臨まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者本人に近づいて話すことや使っていけない言葉の指導などにより、プライバシーや尊厳に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室担当職員が入居者の生活歴や習慣を把握し、そのときの意向を汲みながらホーム全体の流れの中でサポートしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者と職員と一緒に準備、食事、後片付けなどを行い、いきいきとすごしている。食事は、速い人、ゆっくりな人、介助を必要とする人それぞれのペースを尊重し、細かい気配りがなされている。おやつは入居者で話し合って決めることもあるが、食事の選択メニューは用意されていない。	○	これまで献立は本社の管理栄養士がつくり、食材の発注も行ってきたが、食材の現地発注への移行を進めつつある。入居者の一層の自分たちの生活についての主体性を高めるため、献立づくりや買出しへの入居者の参加の検討も望まれる。
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則毎日入浴可能となっているが、入居者の希望も少ないので1日おきに入浴とし、半数ずつ入浴日をホールに明示している。入浴日以外は、希望によって対応することになっている。浴室は明るく清潔で、個別の着物がご用意されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、食事では職員と一緒に仕込み、配膳、後片付け、食器洗いまで、そのほかは洗濯もの干し・衣類の折りたたみ、掃除、亀の世話、カレンダーめくりなどホーム内の生活に広く関わっている。入居者は能力に応じて、率先してやりがいを持って役割を担おうとする姿勢が見られる。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	坂道などの関係もあり、歩行能力に応じて2グループに分けて、日常的に周辺の散歩を行っている。また、ドライブで慣れ親しんだ市内のスーパーなどにも出かけ買い物などを楽しんでいる。	○	散歩のみでなく近所のコンビニ、ケーキ屋さん、喫茶店などへも希望に沿って出かけられることが望ましい。日ごろから立ち寄り先の店員などに対応の理解を得ることや職員の手が足りず必要であれば地域や学生ボランティアの導入など可能性の検討も望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	住宅が密集し道路も狭く坂も多くて危険なので、玄関は安全のためおオートロックで通常鍵がかかるようになっている。入居者が外出しそうな気配を察知して職員がその都度対応している。	○	入居者が閉じ込められておらず自分の意志でいつでも出られるという感じを持てることが尊厳にとって大切なので、安全を確保しながら鍵をかけない工夫努力が望まれる。
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て消火器の取り扱いや緊急避難訓練を実施している。緊急対処要領をマニュアル化し、緊急避難場所や消火器の設置場所なども普段から周知を図っている。	○	緊急時、職員が昼夜を問わず落ち着いて対応できるように救急救命法や緊急連絡などのマニュアルを習熟しておくことが望まれる。また、地域防災計画への組み入れなど一層の地域との協力体制推進も望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	喫食の状況はこまめに作業日誌に記入され、かかわる職員が情報を共有できるようになっている。管理栄養士が献立の作成や喫食状況による指導助言を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全体的に明るく清潔感があり、施設にありがちな臭いもない。食卓兼用のテーブルには各人の記名がしてあり、テレビやソファなどもある。壁には入居者の希望で作品を多数展示している。中庭からは自分たちの畑が見え、季節を感じることもできる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居者が馴染みの家具、好みのカーペット、カーテンなどを持ち込むことになっている。仏壇の線香を短くするなど安全と迷惑にならないよう工夫してできるだけ意に沿うように努めている。		